



今治にハマった皆さんに、今治の魅力や活動についてインタビュー i'm into Imabari!



File:14



Person

株式会社今治あきない商社

代表取締役

阿部 秀二郎さん

2023年6月、「株式会社今治あきない商社」が設立されました。今治地域の稼ぐ力を創出しながら、関係人口の拡大、雇用の創出を担い、定住・移住促進へ繋げていく“地域商社”のリーダーとして、舵取りを任された阿部秀二郎社長。設立から約半年、無我夢中で走り続けているという阿部社長にお話を伺いました。

今治地域の「稼ぐ力」を創出する

「今治あきない商社」とは？

今治あきない商社について語る上で欠かせないのは、今治市が目指す「瀬戸内クロスポイント構想」の実現です。瀬戸内海の物流や人流のクロスポイント（交差点）に位置する今治市は、その立地条件を生かして、資金、消費、投資の「流出」を「流入」に変え、地域内で所得が循環する仕組みを構築しようとしています。「外から稼いでくること、つまり地域外に製品やサービス売り込み、外部から利益を生み出す力が必要。その役割を果たすために設立されたのが今治あきない商社です。」（阿部社長） 地域の優れた産品を発掘し、販売先（出口）を考えた企画によって生産物を高付加価値化し発信するとともに、今治市の地域経済の新たな司令塔となる重要な役割を果たします。

今治市のふるさと納税を推進する

最優先課題は、今治市のふるさと納税の強化だと阿部社長は語ります。令和4年度愛媛県内のふるさと納税の寄附額では、今治市は、八幡浜市に次いで県内第2位！しかし、その伸び率に課題があるとのこと。今治市の前年度比の伸び率は約10%、民間ベースではこれでも十分にすごいことですが、全国平均は約15%のため、もっと伸ばすことができると期待されているのです。

同社が携わるふるさと納税に関する主要な事業は、返礼品の企画や開発、出荷管理、そして納入事業者との交渉など多岐にわたります。また、ふるさと納税のPRも重要な任務。県外イベントへの参加だけでなく、都内の保険会社や航空会社など大手企業での広報活動なども幅広く行っており、その精力的な活動が実を結びつつあります。



今治市ふるさと納税
サイト

阿部社長がこんなエピソードを話してくれました。先日今治市内メーカーのお菓子がテレビ番組で紹介されたそうです。すると翌日、そのお菓子のふるさと納税返礼品の申込が殺到したとのこと。

以前では考えられなかったことで、国民のふるさと納税に対する意識が、明らかに変わってきていると阿部社長は言います。2023年の寄附額の合計は全国で1兆円を超えると見込まれます。「この時代の流れに適応するには、行政では出来ないスピード感と柔軟性をもって対応していかななくてはなりません。」(阿部社長)



カギは、いかにしてデータを活用するか

「ふるさと納税事業を最大限に活用して、データ分析による商品企画や調査をしていきたいと考えています。どの地域の人かどの返礼品を求めているかなど、詳細なデータが取れるので購買データの活用や、広告を配信するターゲットの絞り込みや媒体の選別も可能、ターゲットに向けたプロモーションを行うこともできます。」(阿部社長) そもそも、ふるさと納税とは、自分の故郷や応援したい自治

体に寄附をする制度です。今治に納税してくれる寄附者は、少なくとも今治に興味と魅力を感じてくれており、寄附者の中には、その地域の魅力を知ること「実際に足を運びたい」と考え、具体的なアクションを起こす方も珍しくありません。そこで、寄附者の多い地域や好まれる返礼品を細かくセグメント化するなど、データを有効活用すれば、商品に関心のあるユーザーに対して効果的な訴求が可能です。さらに、これらの情報を生産者や事業者へフィードバックし、新商品開発や認知度向上につなげることもできます。

株式会社伊予捺染の代表取締役社長として、また今治捺染工業協同組合の理事長として、長年多くのビジネス課題に取り組んでこられた阿部社長だからこそ、これまで培った経験や人的ネットワークをフルに活用しながら民間企業のビジネススキームを取り入れ、今治市とも連携して、同社の運営を軌道に乗せることを託されたのでしょう。

「これからはソフトを生かすことをやっていきたい」という阿部社長。持続可能な地域を実現するためには、きちんと稼ぎ、お金を回すことが重要なのです。地域の稼ぐ力を創出する「株式会社今治あきない商社」が地域経済の起爆剤となることは間違いないようです。今治市に、新しい風が吹いています。



あなたの i'm into をおしえてください



「I'm into 妻 と言いたいところだけど、妻に怒られるから(笑)」と茶目っ気たっぷりの阿部社長。悩んだ末に書いてくれたのは「世界!!」。長年仕事で海外を飛び回り、今でも海外へ行きたくてウズウズしているそう。もしもこの職に就いていなかったら、今ごろ世界中を旅していただろうなあ…と笑いつつ、「I'm into 世界!!」。今治の造船業、タオル産業は世界に羽ばたいています。阿部社長の言葉には、もっと多くの地場産品を世界に発信したいという熱い思いが込められていました。

●株式会社今治あきない商社
〒794-0042 今治市旭町二丁目3番地5
(今治地域地場産業振興センター2階)
公式ECサイト (Imabari Style)

